

病虫害発生予察地区報 第3号

— 地区情報 —

害虫名：ヒサカキワタフキコナジラミ

学名：*Pealius euryae* (Takahashi)

発生作物：チャ

1 情報の内容

南信地域でヒサカキワタフキコナジラミの発生が確認された。本種はチャに寄生して吸汁し、発生密度が高いと幼虫が分泌する甘露によりすす病が発生する。

2 対象地域

南信地域の茶園

3 発生経過

令和2年5月に南信地域の茶園で、白い綿状物質に覆われた種不明のコナジラミ類が発生したため、農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼した結果、ヒサカキワタフキコナジラミと確認された。

本種は、森林に自生する「ヒサカキ」というツバキ科の常緑樹に寄生するコナジラミであるが、平成27年に埼玉県において、国内で初めてチャでの発生が確認され、以降、静岡県、愛知県、三重県、京都府で発生が発表されている。

4 形態

- (1) 成虫は、体長1mm程度。体色は白色でオンシツコナジラミによく似る(図1)。
- (2) 幼虫は小判状で、体色は淡い黄緑色。周囲に長い糸状の白色綿状物質をもつ(図2)。

5 生態と被害

発生県の情報によると、以下のような生態や被害が報告されている。

- (1) 成虫、幼虫ともに新芽および新葉の葉裏に集合して寄生するため、葉裏全体が白い分泌物で覆われる(図3)。発生密度が高いと葉表にも白い分泌物が観察され、甘露によるすす病も発生する。
- (2) 直射日光の当たらない株内の地際から出た枝条の新芽・新葉に寄生が限られるため、収穫芽やチャ樹の生育に直接被害を及ぼす恐れは少ない(図4)。
- (3) ただし、日当たりの悪い茶園や遮光等の被覆を伴う栽培形態の場合には収穫物となる新芽に被害が発生する可能性がある。

6 防除対策

- (1) 令和2年6月1日現在、本種に適用のある農薬はない。
- (2) 現在のところ、防除対策の必要性は低いと考えられるが、チャにおける本種の発生生態についてはまだ不明な点もあるため、発生状況を注視する必要がある。
- (3) 本種の発生が見られた場合は、農業農村支援センターまたは病虫害防除所に相談する。



図1 成虫



図2 幼虫（○印）と羽化後の蛹殻



図3-1 葉裏の様子



図3-2 葉裏の様子



図4 株元地際の枝条

長野県病害虫防除所 中南信担当
塩川正則（所長）
岩崎和之（次長） 水谷俊英（担当）
TEL：0263-53-5642
FAX：0263-54-4508
E-mail bojo-y@pref.nagano.lg.jp